

高度成長前半期における証券市場
——大衆化の促進とオープン型投信制度の改革——

白鳥 圭志

〈要旨〉

本稿では、高度成長前半期における証券市場について、大衆投資家の市場への誘導を目的とする投資信託制度の改革と市場の不安定性の激化との関係を論じた。結論は、次の点である。

大蔵省は、有価証券の消化基盤として、大衆投資家に着目した。彼らを市場へと誘導するために、1957年以降、よりハイリスク、ハイリターンなオープン型投信を導入した。貯蓄的観念が強いものの、売却益や配当収入も重視する大衆投資家はこれを歓迎した。しかし、1960年代前半の株価の下落過程で、大衆投資家は損失を嫌って投信売却に踏み切った。その際、オープン型が市場崩落に与えた影響は、ユニット型に匹敵していた。